
きみにひびきますように・・・

あき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

きみにひびきますように・・・

【Nコード】

N5974Q

【作者名】

あき

【あらすじ】

普通の中学生「翔」が何故か幽霊が見えるように・・・

「ほら、ここ！！悩ましげな足、無駄にデカイ、おし、ぐふっ！！」

何故幽霊が？自分に？？その日から人生が一変！！騒がしく！？

平穩無事が好きな中学生男子にどんな物語が？

プロローグ

第一部：プロローグ

1999年 東京 青梅街道 吉祥寺通り

黒よりも暗い夜の空、本来なら明るく闇を照らすはずの月も今宵はすっかり隠れて

悲しみの「雨」を流している・・・

ざっーーーーー！。

小粒ながら絶え間なく流れる雨。

ときおり
時折、10月にしては冷たい空気を運ぶ風、その中、腕にお腹に足に傷を負い、痛そうに足をひこずっている髪の長い女性が一人、人通りの少ない道を吉祥寺に向かっていてる。

その女性は雨の中、傘も差さずに苦しそうに歩いていた・・・

「くっ、なんで関町の研究所にあんな『能力者が???』」

「せつかく、研究所を爆破することが出来たのに、、、早くしないと、あいつ、が！」

ケガをしてる女性、こと、「ひろみ」の背後で静寂を切り裂く、サイレン、が鳴っていた

ウーーーーー、カンカンカン・・・

「研究所のデータは爆破できて、それはいいが、、、なんとか生き延びて、あの子、に逢わないと・・・」

顔にまで血が流れていたが、その目には強い意志が感じられた。

が、ひろみの前方に人影が現れた。

> i 1 7 5 2 6 — 2 3 7 4 <

「ボクから逃げ切れると思っただかい？w」

現れた女性は、後ろ髪は長く前髪は切りそろえて、綺麗で若く、可愛い女性だったが眼は冷たく殺気を帯びて、その手には「太刀」を携えていた・・・

> i 1 7 5 2 7 — 2 3 7 4 <

ひろみは、冷汗をかきながら嫌な予感を感じてた。

(・・・ここで？、たしかに少し前に見た景色はここに似てた・・・)

ひろみは嫌な予感を感じながらも自分の考えを吐き出した

「まさか、ここまで追っかけてくとは思わなかったわ・・・追っ

かけて来たって事は「本部からの指令」で偶然あの場所に居合わせた訳ではないのね・・・」

「うんw そうだよw」「本部からの指令」で関町の研究所を破壊する者を何としても殺せって命令なんだww
だから、どくどくしても、殺さないといけないけど、まさか、研究者が「能力者」とはね？
以外だったw」

ひろみは、どうやってこの状況を切り抜けるか？を「太刀の女の子」の発言を聞きながら一生懸命に考えていたがどうしても「答え」が見つからなかった・・・

少しの沈黙ののち「太刀の女の子」が言った。

「じゃ そろそろ、終わりにするよw 鬼ごっこ、嫌いだしw」
その言葉の後、「太刀の女の子」の目は鋭く、相手^{ひろみ}を睨んで離さなかった・・・

ひろみが「待つて！！まだ、聞きたい事が・・・」と言い終わる前に「太刀の女の子」は動いた！
いや、正式には「消えた」が正しい表現だろうか。

そして、消えたあとは自分がスローモーションで自然に崩れて行くのが何故かハッキリ解った。そしてゆっくり崩れていく中、とある

一つの考えだけが頭の中を支配していた。

（ああっ・・・あの子に逢わないといけけないのに・・・あつて伝えな
いといけけないのに・・・会いたい私の・・・）

ドサッ！！！！

自由が利かず、薄れゆく意識の中、ひろみは不思議な感覚に包まれ
ていた。

（・・・あつたかいwなんかお風呂に入ってるみたいwでも、目の
前は歪んで赤くなってる。

さっ！行かなきゃwそうそうw、あの子、に逢う前にお土産買
わなくっちゃwwww・・・

あれ！？おかしいな？？立ち上がれない、、

あれ！？あれれ！？？お願い、立って！！立たないといけけない！
！！

あっ！、腕が足が動いたw）

ザンッ！！！！

「いや、まだボクの攻撃を喰らっても生きてるなんてすごいね、
感心感心w

まるで、死にかけのゴキブリ、見たいに足や手を動かしてさ、
www

キモいんだよねwww」

ザクッ！ザクザク！！ゴリッ！！！！

「あはははっw、・・・やっと動かなくなったwこれにて、任務
完了！！」
さて、本部に連絡しないと・・・」
返り血を浴びながら笑顔で止めを刺したあと、何もなかった用に携
帯で連絡しながらその場を
歩き去って行った。

「太刀の女の子」が去って数分後、
血だるまになり、まったく動かないひろみの体が明るい光に包まれ
た。

そして、その光は粒になりそして漆黒の空へと登り始めた。

まるで、何かに導かれるように・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5974q/>

きみにひびきますように・・・

2011年2月3日08時59分発行